

道北地域の環境緑化樹について

斎藤 新一郎

北海道はわが国における寒冷地方であり、とくにその北部地域は冬期に寒冷かつ多雪である。この厳しい気象条件は凍害・寒風害・雪害をもたらし、環境緑化樹の育成をむずかしくしている。それで、現状では、民家の庭や屋敷だけでなく、神社、寺院、学校、公園、その他の公共施設にも、環境緑化のための植栽が十分に行われているとはいえない。

道北地域の環境緑化樹植栽を調べると、本州方面（暖温帯）および外国産の樹種がかなり多い傾向にある。この要因には、父祖出身地へのあこがれ、教科書・書物・テレビ・新聞などに本州中心の樹種がのること、本州からの苗木供給、身近に生育するものより珍しい樹種を好むこと、その他がある。

けれども、道北地域の気候はこれら南方系樹種の大半に、屋外冬越しのパスポートを与えない。春から夏に苗木を求め、ひと夏ながめ楽しんで、冬に枯らすというパターンを変え、環境緑化のための樹木植栽に意欲がわくようにするには、適樹を選ぶことがひとつの有効な方法と考えられる。

道北地域に天然分布する樹種

ある緑化樹がその地域に適するかどうかを判断するとき、天然分布と植栽分布の両方を参考にするとよい。前者は天然生林の樹種構成や諸文献から知ることができ、後者は既往の植栽樹種を調べることから知られる。

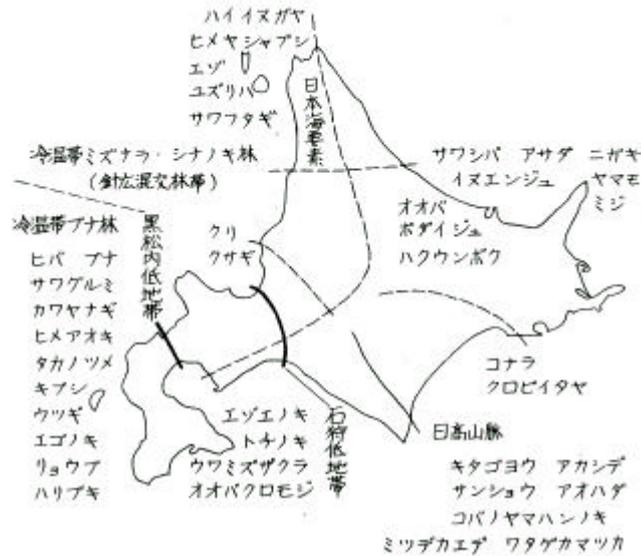
樹木の天然分布（水平分布）の北限は、総体的には耐寒性によって決まるのであろうが、生育地の適否、微気候、積雪深、種間競争、分布拡大の速さと機会、その他の因子によって、地方的ないし局所的に左右されることがある。

森林帯から北海道をみると、黒松内低地帯までの西南部は冷温帯ブナ林であり、北限がここにある樹種がかなりある。これから東側は冷温帯落葉広葉樹林であり、ミズナラおよびシナノキが中心となる。

石狩低地帯も重要な分布限界となっている。また、日高山脈、石狩平野、中央高地などもいくつかの樹種の北限である。さらに、対馬暖流と積雪の保温効果とに関係した、日本海要素とでもいうべきものもある（図）。

道北地域に天然分布する樹種は、表のように、同じ冷温帯落葉広葉樹林帯（ないし針広混交林帯）に属する南部、中部地域に比較すると、その数がかかなり少なくなっている。

これら天然分布樹種は、異常気象によって周期的な気象害を受けることがあっても、長い期間にわたって道北地域の気候に適応してきている。それで、これらの樹種はこの地域の環境緑



水平分布の限界（北限）とおもな樹種

化樹種として利用できるだろう。

環境緑化樹として植栽されてきた樹種

既往の環境緑化樹の現況調査を、道北地域の日本海沿岸、オホーツク海沿岸、離島、および内陸部において、1973年から行ってきた。調査対象は農家の防風林、神社・寺院の林（鎮守の森）、街路・道路樹、公園樹、校庭林、庭木などである。

海岸部でよい成果をあげている針葉樹はトドマツ、アカエゾマツ、エゾマツであり、広葉樹はミズナラ、イタヤカエデ、ヤチダモ、ドロノキ、ヤナギ類である。これらは海岸防風林の適樹とほぼ一致し、いずれも道北地域に天然分布する。これら耐風性樹種の保護下であれば、イチイ、シラカンバ、ナナカマド、サクラ類、ツツジ類、ツリバナ類などの、郷土産の（天然分布する）庭木・花木もよく生育できる。

異郷土産の（北海道に天然分布しない）樹種であっても、風が直接あたらない場合には、イチョウ、マツ類、クリ、サクラ類、アジサイ、ムラサキハシドイ、ツツジ類などがみられる。なお、異郷土産であるが、カラマツ、ギンドロ、クロポプラ、スモモなどはかなり耐風性に富む。

内陸部の街路樹・庭木では、耐寒性および耐雪性に富む樹種なら、いずれもよく生育しているが、郷土産ではナナカマド、ハシドイ、シラカンバ、イチイが、異郷土産ではニセアカシア、クロポプラ、スモモ、イチョウが代表的なものである。

古いものは50～70年生となっていて、これらはその地方で「歳月が証明した」環境緑化樹となっている。調査結果から、天然分布樹種および既往の環境緑化樹種を表に示した。

環境緑化の適樹

道北地域で環境緑化樹を選ぶには、前述のように、天然および植栽分布樹種を参考にすればよい。そして、樹木園での植栽経過、道央・道東・道南における植栽例、原産地の気候なども検討して、生育できそうな樹種をもりストに加えることができるであろう（表）。

この表はひとつの目安であり、これら以外にもなおいくつかの樹種が生育可能と考えられる。また、この表には、耐寒性とは別に、つまり育苗、鑑賞、管理などの技術的・社会的要素から適当でないものがあるかもしれない。

北海道の北部地域は冬期に厳しい気候下におかれるが、環境緑化に適した樹種がないわけではない。天然分布および植栽成果からみて、この地域にもかなり十分な種類の環境緑化樹があり、環境条件の厳しさに応じて、郷土産、準郷土産、そして異郷土産の順序で適樹を選んでゆけばよい。

また、耐風・耐雪性に富む外囲い（屋敷林）樹種と、内庭用の緑花木とを区別して植えることが望まれる。適樹を選ぶとともに、植栽および管理技術を向上させることも重要な条件である。多雪地域における植栽・管理技術については、次の機会に書いてみたい。

さらに、道北地域の人々が、自分たちの生活している自然環境を正しく理解することも、環境緑化樹の植栽にとって重要な条件といえる。これらの諸条件を満たしつつ、熱意と時間とが、この地域に適した環境緑化をもたらすであろう。

道北地域の環境緑化樹のリスト

生活形	道北地位に天然分布する樹種	既存の環境緑化樹種	生育できそうな樹種	
針葉樹	高木	イチイ [*] 、トドマツ [*] 、アカエゾマツ [*] 、エゾマツ	イチョウ [*] 、ヨーロッパトウヒ [*] 、カラマツ [*] 、アカマツ [*] 、サクラ [*] 、ニオイヒバ [*]	グイマツ [*] 、キタコヨウ [*] 、チョウセンゴヨウ [*]
	低木	ハイイヌガヤ、ハイマツ、ハイネズ、ミヤマビャクシン	モンタナマツ [*]	
広葉樹	高木	ドロヤナギ(ドロノキ)、エゾノバッコヤナギ、ナガバヤナギ、オニグルミ、シラカンバ、カシワ、ミズナラ、ハルニレ、オヒョウ、ヤマグワ、カツラ、キタコブシ、ホオノキ、ミヤマザクラ、エゾヤマザクラ、シウリザクラ、アズキナシ、ナナカマド、イヌエンジュ、キハダ、ニガキ、ハウチワカエデ、イタヤカエデ、アカイタヤ(ベニイタヤ)、シナノキ、ハリギリ、コシアブラ、ミズキ、ヤチダモ	ギンドロ [*] 、クロボブラ [*] 、シダレヤナギ [*] 、ウンリュウヤナギ [*] クリ、ハクモクレン [*] 、セイヨウミザクラ [*] 、スモモ [*] 、セイヨウナシ [*] 、ニセアカシア [*] 、シソジュ [*] 、ヤマモミジ、ネグンドカエデ [*]	ヒメグルミ [*] 、クログルミ [*] 、ブベスケンスカンバ [*] 、ベルコーザカンバ [*] 、コナラ、アカナラ [*] 、ブナ、ノニレ [*] 、アメリカスズカケノキ [*] 、ヨーロッパナナカマド [*] 、カラコギカエデ、ルブルムカエデ [*] 、サトウカエデ [*] 、チノキ、キササゲ [*]
	低木	イヌコリヤナギ、ツノハシバミ、ミヤマハンノキ、ヒメヤシャブシ、ヒロハノヘビノボラズ、エゾアジサイ、ノリウツギ、エゾスグリ、ホザキナナカマド、ヤマハマナス(カラフトイバラ)、オオタカネイバラ、ハマナス、チシマザクラ、ウラジロナナカマド、エゾノコリンゴ、マルバシモツケ、エゾヤマハギ、ツルシキミ、エゾユズリハ、イヌツゲ、ニシキギ、コマユミ、ツリバナ、マユミ、ミネカエデ、ナニワズ、ウリノキ、イソツツジ、キバナシャクナゲ、ハクサンシャクナゲ、カクミノスノキ、サワフタギ、イボタノキ、ハシドイ、エゾニワトコ、カンボク、オオカメノキ、タニウツギ、ケヨノミ	コリヤナギ [*] 、ポタン [*] 、メギ [*] 、ハクモクレン [*] 、アジサイ [*] 、ゲースベリ [*] 、アカスグリ [*] 、ヤマブキ [*] 、ボケ [*] 、コデマリ [*] 、シモツケ、ムクゲ [*] 、ナツグミ、アキグミ、ヤマツツジ、レンゲツツジ、エゾムラサキツツジ、チョウセンレンギョウ [*] 、ムラサキハシドイ [*] 、テマリカンボク [*]	ウツギ、バイカウツギ [*] 、ワタゲカマツカ、シロヤマブキ [*] 、キバコデマリ [*] 、イタチハギ [*] 、ハクウンボク、サラサドウダン
	つる	チョウセンゴミシ、ツルアジサイ、イワガラミ、ツルウメモドキ、ヤマブドウ、サルナシ、マタタビ	フジ [*] 、ツタ、ツキヌキニンドウ [*]	ツルマサキ

環境緑化樹として植栽されている樹種、*北海道に天然分布しない樹種

(道北支場)